

2020年度の海外売り上げ 15億円達成に向けて タカラスタンダードが初の「台湾タカラ会」開催

システムキッチン・バスを中心とした住宅設備機器メーカー・タカラスタンダード株式会社（本社：大阪市城東区、代表取締役社長：渡辺岳夫）は、台湾における売り上げの拡大を図るため、12月15日（土）に台北で、お得意先との懇談会「台湾タカラ会」を初めて開催しました。



（「台湾タカラ会」ご出席者の皆さま）



（台北国際建築建材及び産品展）

国土交通省が取りまとめている建築着工統計調査によると、国内の新設住宅着工戸数は1989年には約170万戸だったのに対して、2017年の統計では約96万戸と半減する勢いで減少を続けています。そこで新たな市場として考えられるうちの一つが海外でしたが、かつて住宅設備機器業界では、各国の気候や生活習慣、文化等の違いや現地に比べて高コストであることなどを理由に、海外での展開は従来から難しいといわれてきました。しかし、海外に比べて圧倒的に優れている日本の商品の人気は近年確固たる地位を築いており、現在では複数のメーカーが積極的に展開を広げています。

当社は国内の競合企業の中では比較的后発として、3年前に本格的に海外進出をしましたが、平成30年度上期の売り上げが前年対比約150%と、順調に売上を伸ばしています。中でも台湾は、現地の販売店が約30店舗のショールームを展開しており、当社にとって重要な市場です。そこで、さらに当社への理解を深めていただくため、また販売ルートを超えて現地での交流を図っていただくために、この度初めて「台湾タカラ会」を台北にて開催しました。当日は、代理店と主力販売店が出席。日本市場や日本国内における当社の近況報告や当社の海外事業の状況などを報告したのち、質疑応答や要望のヒアリングなどを行い、活発な情報交換の場となりました。

今年も現地販売店の永聖貿易股份有限公司が、12月13日（木）～16日（日）に台北南港展覽ホールで開催している「第30回台北国際建築建材及び産品展」に出展し、水分や汚れをシャットアウトするため、高温多湿なアジアで好評の「ホーローシステムキッチン」をはじめ、当社独自の「高品位ホーロー」をアピールする商品を多数展示しました。

タカラスタンダードは、今後も台湾をはじめとした東南アジアを中心に売り上げ拡大を図り、2020年までに海外における現地販売店ショールームの数を約80店舗まで増やし、15億円の売上を目指します。

<タカラスタンダードとは>

1912年創業。『ずっと「愛せる」というしあわせ。』をブランドコンセプトに、独自の「高品位ホーロー」技術を活かしたシステムキッチン・バスを中心とした住宅設備機器を製造販売。より高度化、多様化、複合化するお客さまのニーズにお応えするホーロー技術のリーディングカンパニーとして、また住宅設備機器のトップメーカーとして、次世代を担う新たなホーローの可能性を追求し、快適な暮らしの創造を目指しています。

〔設立：1912年5月30日（創業106年） / 売上高（連結）1,884億円（平成29年度） / 従業員数（連結）6,121名〕